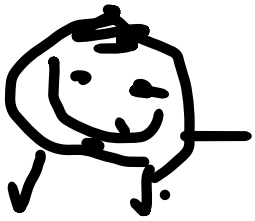
R4, 12 月発行

しえん便り

みくまの支援学校支援部

本校ではコーディネーターが集まり、研修を行っています。研修ではこれまで、コーディネーター業務について、教育相談時のパンフレット等の活用の仕方、ケースカンファレンス、スクールカウンセラーによる研修などを行いました。今回は昨年発達についての学びあった内容をご紹介したいと思います。



発達の視点から理解するということって？

研修でよく耳にするのが「発達的観点」という言葉です。文字通り子どもたちの行動を「発達」の「観点」から理解しようとすることですが、このことは、教科書に書かれてあるような「一歳半から言葉を話す」とか「三歳になるとごっこ遊びができるようになる」といった「〇歳になると～ができる」といった理解を指すのではありません。もちろんこのような発達の事実を知ることは大事ですが、このような理解だけが先行すると、発達年齢に合わせて「〇歳だから～ができないといけない」として〝外側〟の基準に当てはめて子どもをみるようになってしまいます。そこには子どもたちの「思い」が反映されず、置き去りになってしまう危険があるでしょう。「発達的に理解する」とは、行動の裏にある子どもの内面をとらえることだと思うのです。

O さんは腕差しで目的を伝えることができる、内言語を豊かにしていく段階の高校３年生です。彼は時々教室のハンドソープを床に撒いたり、プランターの土をベランダに撒き踏みつけ靴下や衣服を汚す〝困った行動〟がありました。担任はハンドソープを手の届かないところに置いたり、ベランダのプランターを片づけたりしましたが、すると O さんはトイレのハンドソープに手を出します。これではいたちごっこです。担任は困りました。

「Ｏさんはどうして服や靴下を汚すのだろう」、私たちは行動の意味を考えることにしました。するとＯさんはその行動のあと決まってシャワー室の方向を腕差ししていることに気が付きました。Ｏさんの目的は服や靴下を汚すことではなくシャワーを浴びることだったんだ。そのことに気がついた担任はシャワー室の写真カードを作ってホワイトボードに貼りました。「シャワーを浴びたかったらこのカードを取って見せてね」。Ｏさんはすぐにこちらの意図を理解し写真カードを活用してくれました。写真カードはその後「保健室」、「トイレ」、など場所を示すものから「バス」、「コーラ」、「おやつ」など時間や嗜好などに広がっていきました。

一昨年高等部を卒業したＯさんは今、複数の〝カード〟を使い周囲とコミュニケーションを取りながら支援施設で生活をされています。

発達的視点を「〇〇ができる」という意味だけでとらえることは、保育、教育の実践ではあまり必要がないのかも知れません。しかし、Ｏさんのケースのように行動の裏側、子どもたちの思いをとらえていく視点でみれば発達を学ぶ意味は大いにあると思うのです。

令和３年度 第７回コーディネーター連絡会 ケースカンファレンスより

特別支援コーディネーター等連絡協議会開催のお知らせ

前回お知らせさせていただきましたとおり、今回も新型コロナウイルスの感染拡大防止を踏まえ、オンデマンド配信により開催します。視聴には事前申し込みが必要です。下記コードよりお申し込みください。みなさまの参加をお待ちしています。

申し込み締め切り令和１２月９日（金）

視聴期間

令和４年 12 月 19 日(月)～令和４年 12 月 26 日(月)　各施設・個人単位での視聴期間

令和４年 12 月 26 日(月) 13：00 より　本校会議室での視聴

講演会　テーマ「幼児期から学齢期の発達の道筋について～素敵な大人になるために～」